

### 313億円で整備可能な施設規模（シミュレーション結果）

313億円のPFI事業で整備可能な施設規模を、事業者ヒアリングの結果等を基に試算した結果、次のとおり。試算は専門コンサルが実施。

（凡例 ↓：規模縮小，×：整備不可（観客席数の×は、仮設も不可））

諸室	参考 (基本構想)	パターン①	パターン②	パターン③	県体育館 ・武道館	8千席確保 した場合	7千席と した場合
メインアリーナ(バスケットボールコート面数)	4面	4面	4面	↓3面	2面	4面	4面
〃(固定席数)	4千席	↓2千席	↓1千席	↓1千席	1.7千席	4千席	↓3千席
サブアリーナ(バスケットボールコート面数)	2面	↓1面	2面	2面	1面	×	×
〃(観客席数)	5百席	×	5百席	×	なし	×	×
武道場(柔剣道面数)	4面	×	×	4面	4面	×	×
〃(観客席数)	4百席	×	×	×	1百席	×	×
弓道場(近的12人、遠的6人)	近的・遠的	×	×	近的12人・遠的6人	近的10人・遠的5人	×	×
〃(観客席数)	1.5百席	×	×	×	40席	×	×
その他(会議室、共用スペース)	16千㎡	↓10千㎡	↓10千㎡	↓10千㎡	不明	×	×
		(9千㎡)	(8千㎡)			18千㎡	18千㎡
延床面積	30千㎡	18千㎡	18千㎡	18千㎡	9千㎡	(実現不可)	(実現不可)

#### [各パターンの留意点]

##### パターン①

- ・ 競技フロアが6面（バスケットボールコート）確保できず、県大会の分散開催や夜間に及ぶ開催などの課題解決につながらない。
- ・ 武道場、弓道場の整備不可（⇒別途整備する場合、整備費がより過大となる可能性）

##### パターン②

- ・ 観客席の固定席が1千席となり、現体育館（1,700席）よりも手狭に。
- ・ 武道場、弓道場の整備不可（⇒別途整備する場合、整備費がより過大となる可能性）

##### パターン③

- ・ 競技フロアが6面確保できず、県大会の分散開催や夜間に及ぶ開催などの課題解決につながらない。
- ・ 観客席の固定席が1千席となり、現体育館（1,700席）よりも手狭に
- ・ サブアリーナ、武道場、弓道場に必要不可欠な器具庫や更衣室、観客席の整備不可。

【参考：メインアリーナの観客席数内訳】

メインアリーナ 観客席数	現行	7千席の場合	(参考) 現在の県体育館
固定席	4千席	3千席	1.7千席
可動席	2千席	2千席	なし
移動席	2千席	2千席	2.2千席
計	8千席	7千席	3.9千席

#### [パターン①～③共通の留意点]

- 共用スペースの整備には、最小限約10千㎡が必要。約10千㎡で整備可能な内容は次のとおり。（専門コンサル意見）
  - ・ アリーナ標準で必置とされている諸室（監督室、記者室、更衣室、医務室等）。
  - ・ 地震等の緊急時に利用者を安全に避難させるための待機スペース（ロビーや廊下）及び避難経路に必要な共用スペース。
- メインアリーナの観客席を削減することで、施設の利用率収入が大幅に減少。また、固定席の下のスペースが縮小するため、そこに収納する可動席も減らさざるを得ないことも想定される。その場合、施設の収入が更に減少することになり、更なる維持管理・運営費の増加が懸念される。このため、長期的な視点では、県の負担が大きくなることが懸念。